

※ 16か所の修正・追加・削除

令和6年度学校経営方針

大島町立第三中学校

校長 松島 睦磨

1 はじめに

本校教育目標の具現化に向け、教職員一人ひとりが自己研鑽を図るとともに、組織的協働体制を構築し、生徒一人ひとりに目を向け、保護者並び地域と三位一体になって生徒の育成に取り組む。

生徒・保護者、地域、そして教職員一同が「三中であった」と誇ることができる学校でありたい。

ポイント

認めて、ほめる → 自尊感情・自己有用感の醸成
三位一体の意志疎通 → ④報告・⑤連絡・⑥相談

教育目標
大島や未来の社会を支える
「立派な社会人」をめざして
一進んで学習し、
互いに知性を高め合おう
一思いやりを持ち、
豊かな感性と心情を持とう
一心身ともに健康になろう

2 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ① 基礎基本の定着と個に応じた学習能力の向上
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の継続
- ③ 家庭・地域やつつじ小と連携した教育活動の推進
- ③ 家庭・地域、関係諸機関との連携によるキャリア教育の推進
- ④ 防災教育・安全教育、道徳教育、特別支援教育、人権教育、の推進
- ⑥ 体罰根絶、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応、組織的対応に向けた教育相談の推進
- ⑦ 東京2020レガシーの推進
- ⑧ 校務改善の推進

3 具体的な取組・指導の重点

① 基礎基本の定着

- ・各種学力調査の結果の検証をもとにした指導方法の工夫改善
- ・少人数・習熟度別展開を取り入れた数学授業（個に応じた指導方法の工夫・改善）
- ・英検、漢検の実施を推進
- ・ICTを活用した授業、問題解決を図る学習や自主的・対話的で深い学びへの取組
- ・毎日の家庭学習、放課後補充教室等の実施
（3年間のスパンで自立した家庭学習への意図的計画的指導の実施）
- ・特別支援教室（SC、巡回指導教員、心理士）との連携
- ・地域人材や専門家の活用
- ・教員の授業研究・研修の充実（校内研修・町教研・管外出張等の活用）
- ・伝達研修の充実と生徒への還元

② 健全育成

- ・ 特別の教科「道德」の推進と生命尊重と思いやりの心の育成
- ・ 集団規範意識の育成（人権教育・生活指導・道德教育・学校行事等の充実）
- ・ 相互連携をもとに全教職員によるチーム三中としての生活指導体制の構築（報告・連絡・相談）
- ・ 災害_____に対する自助・共助能力の向上、（防災教育の推進）
- ・ 体験的活動による自己有用感・自尊感情の醸成（キャリア教育の推進）
- ・ 運動会や文化祭などの諸行事、生徒会活動、部活動等による自主・自立の育成
「地域清掃」「小中合同集会」「花いっぱい運動」等
- ・ 適切な ICT 機器の活用とネット社会への対応力育成
- ・ 地域活動への積極的な参加、地域貢献（生徒・教職員）
「水泳大会」「町レク」「町駅伝」「カメラアマラソン」「盆踊り」「敬老会」等
- ・ スクールカウンセラー、巡回指導教員、教育相談室・心理士等との連携・活用
- ・ 食物アレルギー対応（給食、家庭科調理実習、校外学習、修学旅行、遠征等）
- ・ 学校からの情報発信（校報、学年・学級通信、HP 等）の充実
- ・ 障がい者理解教育の推進

③ 教職員研修・研鑽

- ・ 校内 OJT の推進（相互に研修・研鑽）
- ・ 校内研修の充実（全教員によるテーマに沿った授業研究・授業改善）
- ・ 小中連携
つつじ小と 9 年間を見通した連携教育
（教職員合同研修、行事連携、授業公開、出前授業・見学、教務・生活指導関連等）
- ・ 服務事故防止
個人情報紛失、交通事故、体罰、飲酒運転、迷惑条例抵触行為等

4 OJT —教員相互の人材育成のために—

① 教員相互の日常的な意見交換や助言からの学び

- ・ 日常の授業や指導場面での継続的な実践を行う。
- ・ 各教員の強みや課題に合わせて段階的に進める。（スモールステップ）
- ・ 島の教育（へき地教育）に携わるという当事者意識を持ち教育相談的手法で生徒の内面に迫る生徒理解と生徒指導を行う。

② 常に小さな改善の継続

- ・ PDCA サイクルによって知見を蓄積し活用する。
課題発見・設定→実践→実施後の成果や新たな課題の確認
→課題解決のための改善策→新たな課題発見と新たな課題設定

③ 自己申告書への明記

- ・ 本令和 6 年度学校経営方針に則した職務目標を自己設定する。
- ・ 目標達成のための手立てを具体的に設定する。
- ・ 「3 能力開発」欄に OJT、off-JT の視点に立って記述する。